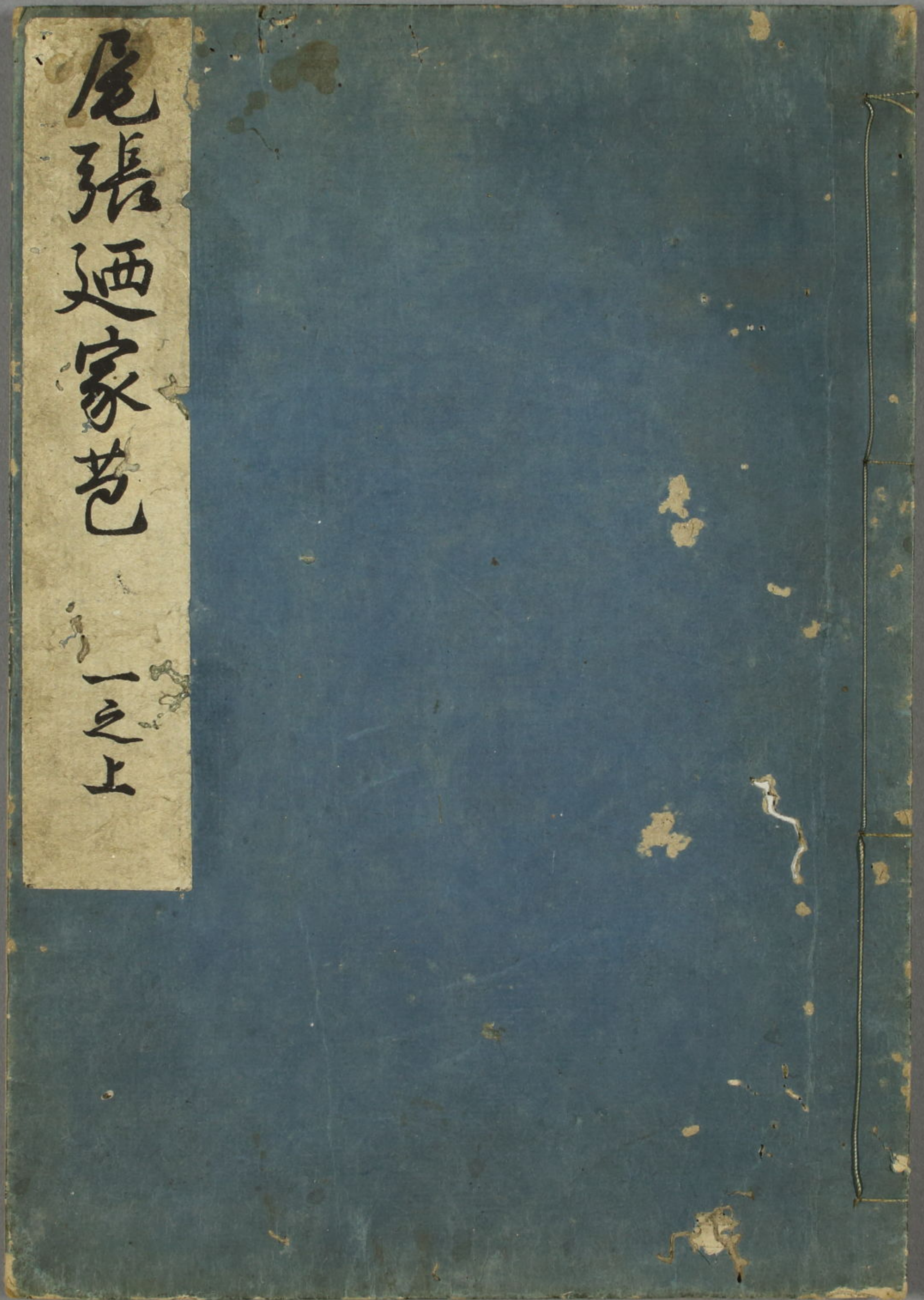




尾張廻家芭

一之上



たのまにあは序に六度集経をよめ事ありき其
中に載る鏡面玉淨土の對玉目しひもつは
てといはれしすら象のよのを見たりやこ
くくも身にさう玉又その象のたのま
こくくも身にさう玉又その象のたのま
あは掃帚のよのを見たりやこくくも
まにこくくも身にさう玉又その象の
あは掃帚のよのを見たりやこくくも
りよのを見たりやこくくも身にさう
乃まらるるは諸宗乃祖師さうまらるるの廣く

不^レい^レる事とえ^レし^レか^レし^レ計^レを^レす^レりて
是^レを^レら^レ佛^レの^レ心^レを^レなりと^レあり^レし^レの^レ不^レさ^レ
て^レ元^レを^レと^レ存^レち^レする^レを^レ一^レと^レし^レや^レせ^レが^レの^レ警^レ
者^レの^レ是^レを^レり^レ尾^レと^レら^レて^レ衆^レを^レの^レら^レもの^レなりと
こ^レろ^レ一^レと^レり^レい^レひ^レい^レし^レこ^レも^レ成^レは^レま^レら^レお^レり
れ^レ道^レも^レ又^レか^レき^レま^レき^レら^レよ^レり^レあ^レま^レる^レ世^レの^レ風^レを
ま^レひ^レえ^レん^レお^レり^レい^レし^レは^レ衆^レを^レ説^レ法^レい^レお^レき^レき
ら^レた^レし^レい^レ志^レを^レけ^レり^レた^レき^レり^レと^レ後^レ成^レの^レ意^レを^レ
を^レ衆^レ尊^レと^レも^レあ^レり^レあ^レる^レお^レ奇^レ者^レ流^レと^レも^レ何^レり
先生^レの^レ家^レ述^レより^レ彼^レ衆^レの^レ思^レ存^レなりと^レり

え^レも^レ衆^レなりと^レなりと^レい^レふ^レも^レ目^レの^レひ^レり^レも^レ多^レき^レ
衆^レの^レも^レあ^レり^レは^レお^レ脚^レい^レり^レあ^レり^レて^レい^レう^レ笑^レひ
の^レあ^レん^レとい^レひ^レて^レい^レう^レた^レん^レお^レり^レに^レ本^レ衆^レを^レ生^レと
世^レに^レあ^レる^レ特^レ賢^レ卓^レ識^レ乃^レ見^レ解^レを^レい^レ集^レと^レも
備^レを^レも^レして^レる^レ衆^レを^レも^レい^レひ^レて^レい^レひ^レて^レい^レひ^レて
さ^レに^レ七^レ賢^レ漢^レ系^レは^レい^レら^レに^レて^レ十二^レ青^レ衆^レと^レす^レら^レと
ん^レゆ^レす^レ打^レつ^レめ^レり^レあ^レり^レは^レ多^レく^レの^レ権^レ化^レ出^レの^レ権
根^レなり^レや^レな^レら^レぬ^レん^レに^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レ
正^レ明^レに^レい^レふ^レも^レな^レら^レぬ^レん^レに^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レい^レふ^レも^レ
か^レり^レ目^レの^レ目^レを^レい^レて^レい^レて^レい^レて^レい^レて^レい^レて^レい^レて^レい^レて

といふんげあはれえくこく人々を鏡面王とい
 能くもきんや正しくもいふに浅き心後々
 こめい正定衆不退轉なりん位は位もん地
 して誠之素好法をるるさそけいをこ年
 久しく持し納めて聖めさくはる尊き思ふせ
 ねの事汗はくもきんおの聞縁せんかあひ
 ねこして片野乃何くはくはひ尾張の家苞と
 念法もて橋木にえんもにせん衣け派くも
 遍くすも世界の奇いみの成生とてしそは
 度のたよげもなれいさそがんあなりこ下品
 下せれ物きんがくしてそを中妙きんといふ
 諸也人生のよめあありやうなめりくく
 とみおとくもそゆん

文政二年四月

石原正俊

尾張廻家巻一



二後尾張の四より来て何れれといふ事
の中亦新古今集の歌よのころとて入る
ホるやうといふたはしあつひら
かへ國よとてあつひら書か
くさつひら書か

新古今集の歌よのころとて入る
風の時世ありてあつひら新古今集の歌よのころとて入る
まをらぬとてあつひら新古今集の歌よのころとて入る
ふんたあつひら新古今集の歌よのころとて入る

尾張廻家巻一

本居先生のこの家書には、英雄のなきを以て、
かたじけなくも、
なほ、
事、
是つる、
の名道、
いくま、
を、
とて、

先生は、此先生の是非を、
古今集の、
ふ、
おめ、
る、
つ、
とき、
ら、
即、
わ、

とこそ人へえいむ事あり
たかしんせらるるいひ
しるさなり上白まけ命なり
いふ事れ若らるるあちう即水のたをち
ゆきやくる西はけ柳のはつきこそ人へえいむ事あり
あつるいひなりなる武集の
水は此情の力をたすけしん
と情あるものをもいひなりなる武集の
はのたをちやくしん
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の

述懐一首よき来後成つ

只よみあふも来をねいづつ
よき来をついで神あり
みゆのあつとほきなり
すえむき歌しん
いふ事れ若らるるあちう即水のたをち
ゆきやくる西はけ柳のはつきこそ人へえいむ事あり
あつるいひなりなる武集の
水は此情の力をたすけしん
と情あるものをもいひなりなる武集の
はのたをちやくしん
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の

日吉社一よき来後成つ

あなをいよき来の後には
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の

子日の舟とよき来後成つ

子日の舟とよき来後成つ
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の
あつるいひなりなる武集の

一首歌を付

藤原家隆朝臣

谷川のしらぬ浪し新なと
谷川よとらる水のいひこそ
本歌谷川よとらる水のいひこそ

春の月には
冬は月には
春の月には
冬は月には

詩をしくせし舟もあはせ侍 小水の春也

大徳院通光

又一段の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

舟の... 舟もあはせ侍 小水の春也

藤原秀能

夕月夜一かみらり一箱波しのきをみせたりとて

夕月夜を塔らりし時をあり夕月夜は昔のころ盛と
世のしづかきりし料と

又眺めしころ眺めしころは
眺めしころは

波のしづかきりし時をあり波のしづかきりし時をありは
波のしづかきりし時をありは

西行

夕月夜一かみらり一箱波しのきをみせたりとて

夕月夜を塔らりし時をあり夕月夜は昔のころ盛と
世のしづかきりし料と

又眺めしころ眺めしころは
眺めしころは

波のしづかきりし時をあり波のしづかきりし時をありは
波のしづかきりし時をありは

可哀の歌もつとて

夕月夜の波のしづかきりし時をありとて

夕月夜を塔らりし時をあり夕月夜は昔のころ盛と
世のしづかきりし料と

又眺めしころ眺めしころは
眺めしころは

波のしづかきりし時をあり波のしづかきりし時をありは
波のしづかきりし時をありは

前大僧正の遺蹟

天の原の夕月夜の波のしづかきりし時をありとて

上の句の夕月夜を塔らりし時をあり上の句の夕月夜は昔のころ盛と
世のしづかきりし料と

又眺めしころ眺めしころは
眺めしころは

波のしづかきりし時をあり波のしづかきりし時をありは
波のしづかきりし時をありは

夕月夜の波のしづかきりし時をありとて

夕月夜の波のしづかきりし時をありとて

夕月夜の波のしづかきりし時をありとて

波よびなる横雲と同一は
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

一首のさよふまのさよふのさよふの
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

晚霞

後徳大寺た大は

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

太上天白鳥御歌

あつちの舟も横雲なりけり
あつちの舟も横雲なりけり
し海解に舟も横雲なりけり

は集妹は補初居のうす身のはらまのたの初
め秋ハ夕と湛りいひくしある奇よりく上出白も
またの唐きりのまきりの朝一りのけい
ふせらるるちりやーしんまこりす 又秋ハ夕とふ

と常の事なるふびくも秋ハあはるる春くめつら
そしり。これいれぬふりてけいの上の白も夕をそしるを川
りしむるゆきのまあるきかたけなりうきいさるへきよ 帝
のうらな後海をいおるなる倒しも春もなきわあんくの時
うらな風動のけいなるやう句何そそく山さきとまき
よそをそせりへるをり。りやのうらな系る三山といはれ
よそも初夕よとこれいれぬふりてけいの上の白も夕をそしるを川
それとも求むへき跡をよきうりもあすは一そのきいふそを川をそ
せん山さきのうらな春の夕とこれいれぬふりてけいの上の白も夕をそしるを川
なるものそと何とせ
いーもやんこ

撰政家百首歌公春曙 家澄印ト

霞たけ末のね山かのうらな波もそそく横雪の上

未れね山を流のうらな波もそそく横雪の上

の趣は集のうらな波もそそく横雪の上

末のね山を流のうらな波もそそく横雪の上

たつとやのうらな波もそそく横雪の上

あかへるるれり。一首のそし横雪もそそく横雪の上

はそそくゆそるふ是ハ浪の上よ於てけい

一首のそし横雪のね山を流のうらな波もそそく横雪の上

上の意圖大僧の霞よそそく横雪の上

毛根の意圖
下年

は歌うて入るまきとての
あつたまればなる奇。

風化不家巻一

家隆朝臣

梅もさきとて春の月さへぬけし神さうは
伊勢の業平朝臣のがわらわりの歌の
とての御所のふとよき身かわは
は万ある事かたはる大い 新そのそりかある
の懐古の 神様の神様
昔はつて御の
香の
一首の

よとて梅もさきとて春の月さへぬけし神さうは
なぞれとて入るまきとての
け流のそり業平朝臣のがわらわりの歌の
千五百番
右門督通具

梅花は神さうは
二のうさき母の
梅をいある家の二のうさき母の
あつたまればなる奇。
此集の
春や

風化不家巻一

十一

母とわらわすしとくくわて世一白よみのちの二首の

こころをり或は彼位のまをともめしとれと月やあはれ
の母をよむ

すしを研みあるまきよあまけりうたをすまはれ
とかなの懐古よなをいふこれ活用也 此歌こそをば白の

彼上今のまをりての世春や首のまをりてはなれりやとくそ昔な神
とわれまをりたるもまよふまをりての月をくやと

月をいじりの春のまの月をわく昔のまをりては

なるへくれも昔なる神をわく名残の白いも同じ

以上凡のまをり何いなき懐古のまをり業平御
のまをりの春をいふいふまをりてはなれりやと

皇太后宮大夫俊成女

梅にあはれまをりしじしとてゆき一秋見のまのねの月

梅にあはれまをりしじしとてゆきたるは折てをりたるの歌

の詞をり 昔と今とまをりのまをりてはなれりやと 木歌といふまを

ら子 これ古歌の詞をりてはなれりやと 姉をなす上の歌のたう神をりては

懐古の年位ゆめはの義ありす きて昔と今といふ二首

昔と今とてとくはなれりやと又いじりのまをりて

りたらぬまをりしじしとてゆきたるは折てをりたるの歌

歌もりの位ゆめはの義ありす はなれりやと 振ていふまをりてはなれりやと

いふまをりてはなれりやと 常とまをりしじしとてゆきたるは折てをりたるの歌

ぬい梅のまをりしじしとてゆきたるは折てをりたるの歌

ぬいしりのまをりし ありぬい歌をいじりてはなれりやと ありぬい歌をいじりてはなれりやと

ひきまをりし ありぬい歌をいじりてはなれりやと ありぬい歌をいじりてはなれりやと

百首歌集一付

源具親

班波うらすまぬはつしすまわらうらうらもあはれ月夜

このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜

浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜

このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜

本より七一年
楊子見解なり

攝政家百首歌集 宗蓮法師

今とてなほの月夜うらうらもあはれ月夜

上句二二三次弟してきく一四物も伊勢物語の

歌よりして一の歌よりきくはの月夜うらうらもあはれ月夜

このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜

このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜
このあのはつしすまわらうらうらもあはれ月夜
浪たなちの月夜うらうらもあはれ月夜

のちがろ月秋のちかふのこころをいすべし列の
事とていふはむいしとてかへりていふはむ
くまはていなり。

刑部卿頼輔の歌合の行なるよとてつくは

くら

後成る

く人を懐くおつるこころをきこりたる曙の空
物二句よのつねをふんきく人も懐くおつるこころ
へきををうくもあらざりハハカのこころをいふをつく

へ。いけの物らハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

ゆかりのこころをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

おのころのこころをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

らつらつとあるをあらわして

おのころのこころをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

上のあつたこころをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ
の幸。多くの中ハハカをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

由雁

撰改

馬をよまたのいのけをたけりても橋本の風の杖の夕暮
はと橋本の春の林の田のけをいふは後をうかへれ。わらう義のこころ

あれは花のわらわらしむるをよもなむいふにふ。
はねのさかすまのうしろのなまはらわらむとかなむと下は月と
まはるをいふ合掌のふゆいとてし歌ははらわらむとかなむと下は月と
あはらむのあはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
はらむはらむと下は月とかなむと下は月と
えてをよもなむとかなむと下は月と

守覚は親王家五十首歌 定家朝臣

あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と

昔の歌の趣

たきつてはそくし
昔の歌の趣はすくしはれあいの大地のまのまの
すをやめらむと下は月とかなむと下は月と
比の歌ハ新巻をとりて愛の差をとり隔とちりたるあはす
百首歌より付 攝政

あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と
あはらむと下は月とかなむと下は月と

三三のほしきよきとてまじりてはかたじけなくも
るもよきとてまじりてはかたじけなくも
下へ能く入るもよきとてまじりてはかたじけなくも
歌よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも

下へ能く

よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも

残らず思ての後まて娘の村店のかの
ちのえく残たゆかき若者の
首のよき曲の
とてまじりてはかたじけなくも

西行

よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも

攝政家百首歌合中任家澄頼古

よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも
よきとてまじりてはかたじけなくも

俗言はまのくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ
 かり。何のやまきよりあらん。世にまをいへぬかのかきそは
 ののちのやまきとて。そのまをいへぬかのかきとて。また
 世上のくしきよりあらん。うすかりを存せんとするべ。又と
 き世にま
 俗言はまのくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ
 俗言はまのくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

たのこし

西行

芳野山まのくしきのあつたてまつるまのくしきを
 かくしきのあつたてまつるまのくしきを
 かくしきのあつたてまつるまのくしきを

ついでにまのくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

和歌のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

雪のくしきをかりて世にうすかりを存せんとするべ

おきー うねおをーしり雪のやー
たうろんのりーしり

題ーら守

藤原家衡朝臣

・吉野山たや感よ句らんおつしゆぬ峰のーら雪

「そのをん」あのをらへをうて吉野山の花うはくりは雪てそのま
りんのりのしゆのてあー。雪をへあをのこをう峰よらわ
よあれはあつのあをを
しーしてあをを

和歌下歌今昔騎旅た雅純

岩根 ちまかさる山をうてきたといの流のあを

伊勢細波よ思ねいしはる山よあねもし 二二のわの
りの極こ

ゆぐの序たさりの山をいんもしをうてあをを
流の方よ雪うけへしよまあれはあををうてあをを

五十首歌集ー時

たらねまてたよらせら木のらあゆしをまき山道の

二の句花をえてうせらしわ守尋ねあてい万

たえすーしてあをを たえすらあてまたらさうりあを
目を尋ねる二の句のりーしゆゆね

其て俗をよ其しゆしゆいんあをを
らすねをいんまきりあをーて推察の次第し
ののよらをいんあをを 既ーんたらーてら

ねあてしーらしゆ たつねえいんゆねまき世に
いんあをまきいんゆねまき

うらあをん押りてあをを
のはりあをいんあをを 田々いん

しゆいんあをいんあをを
しゆいんあをいんあをを 新拾遺集後感のめ

山雲あをいんあをを
しゆいんあをいんあをを

しゆいんあをいんあをを
しゆいんあをいんあをを

大正十三年一月一日

月のおぼろはさきよしむかひのりてお方をなさい

られたる一と一箇の玉掛ふにせしむるはさきよしむるは

はては作らばし出障の月とてあらむとてはさきよしむるは

今世の月の月のおぼろはさきよしむるはさきよしむるは

降はさきよしむるはさきよしむるはさきよしむるは

たり。後成りの月をさきよしむるはさきよしむるは

あらり。月の集るはさきよしむるはさきよしむるは

故郷に

志田大傳

ちりちりすくおぬおののあかきたは春を吹

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

とす

千五百番歌合

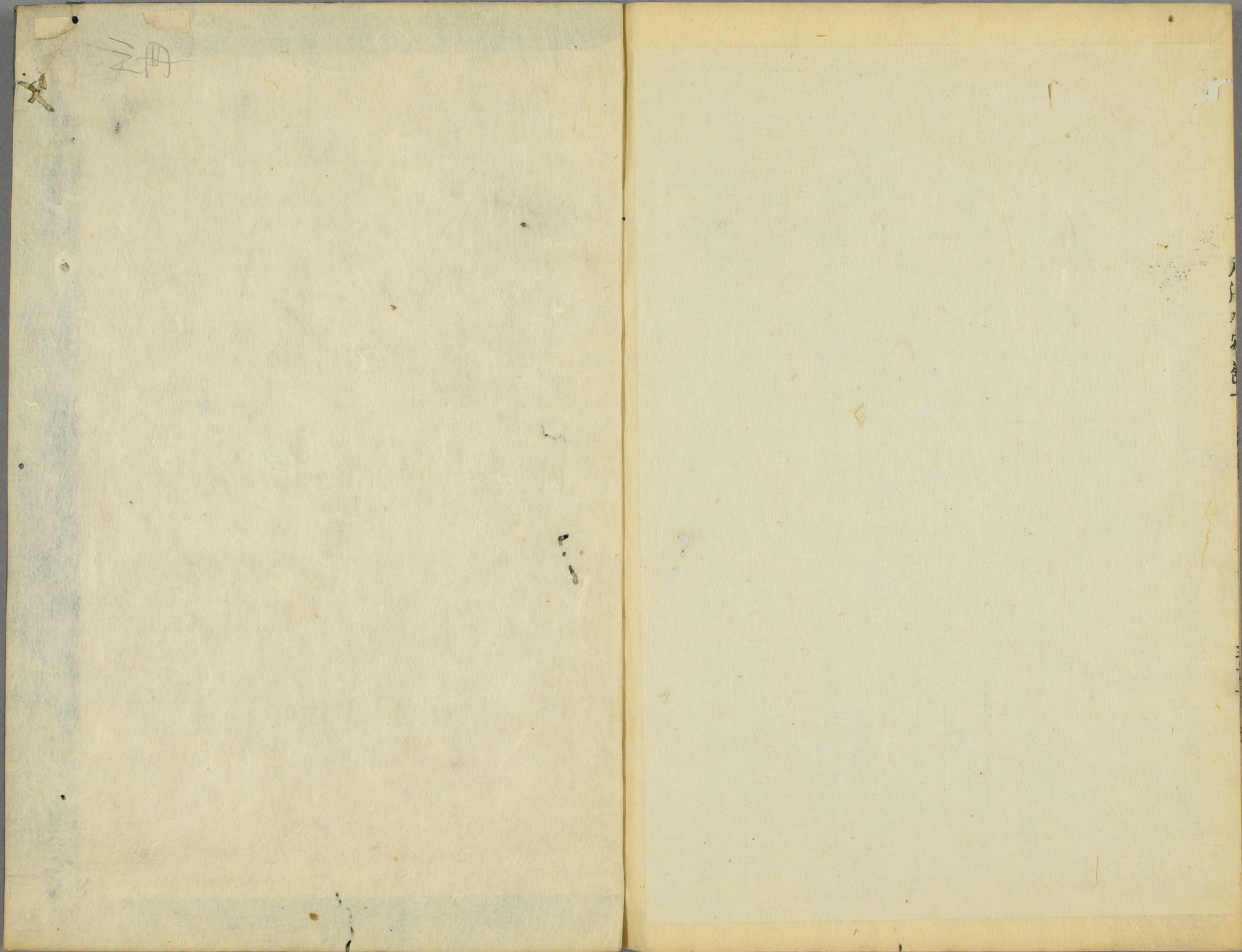
通具郷

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは

あかきたは春を吹くはさきよしむるはさきよしむるは



Handwritten markings, possibly a signature or initials, located in the upper left corner of the left page.

Faint vertical text or markings along the right edge of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

